

エンデュランスと動物のウェルフェアとスポーツにおける公平さについて

FEI 事務局長 Ingmar 殿

憂える多数のライダー、トレーナー、役員を代表して、というだけでなく、一般の、メディアの、動物愛護団体のオブザーバーたちに代わって、スイス馬術連盟は、FEI 規律によるエンデュランスの近年における後退の問題を話題にせずにはいられない。

正しく公正なマナーで馬の幸福を尊重しつつ馬術競技をおこなおうとしている大多数のライダーと役員を責めるものではないが、FEI エンデュランスの現在の状況は、スイス馬術連盟にとってもはや受け入れ難い形となっている。このように述べる理由は、a)動物の幸福と b)競技の公平性を尊重しない深刻な状態ゆえ、である。

ここでは、馬への虐待を示す多数の目撃証言や書面を列挙することは控える（その一部はウェブ上で証拠書類が提供されている）が、そこには以下のものが含まれている。健康問題や異常なまでの骨折の頻発（Nagy et al., 2012; Cooms and Fisher, 2012; Mishef et al., 2010 も参照のこと）や危険な治療法に関する獣医のショッキングな報告書、および、スピードを出しやすくするための競技場の地形の変更、さらには、エンデュランス・ライド前および最中における不正行為、一部役員および FEI スタッフの無責任と職務放棄（たとえば不正行為やトラブルを報告しないこと）、である。

この観点から、近年発生した 2 つの事態だけを具体例として挙げよう。

例 1： 動物のウェルフェアと FEI 行動指針に反する事例の多発

薬物検査およびドーピング検査の陽性結果の著しい発生率に目を向けよう。エンデュランスは、禁止薬物が検出されるスポーツの明らかなトップになっている。FEI ウェブページ(www.fei.org, 表 1~4)によれば、2010 年 1 月 1 日~2012 年 12 月 31 日の期間に 41 頭のエンデュランス・ホースが陽性と判断された。そのうち 31.7%はさまざまな筋肉増強剤のような「禁止物質(Banned Substances)」によるもので、68.3%はいわゆる「治療用規制物質(Controlled Medication Substances)」によるもので、その多くは混合薬物として与えられる。その結果が、10 件の「行政手続き(Administrative Procedures)」(＝その条件は、以下のものである：「治療用規制物質」(そのメタボライトを含む)の検出が 1 例だけだった場合；責任者および／または(場合によっては)サポート要員および馬が初犯である場合；馬からそのサンプルを採取した当該大会がオリンピック、パラリンピック、世界選手権でない場合)と、31 件もの「裁判所審理事例(Tribunal Case)」(75.6%)であった。

これを同時期の FEI 競技である障害飛越と比較してみる。ちなみに、2011 年における障害飛越の FEI 登録馬は 31064 頭であったのに対し、2012 年の EEF エンデュランス馬は 9656 頭 (EEF2012) だった。障害飛越では、ドーピング検査の陽性結果は合計で 29 例(そのうち 27.5%が「禁止物質」の使用が原因)で、「行政手続き」に至ったのは 17 例、「裁判所審理事例」はわずかに 12 例(「裁判所審理事例」の割合

は 41.4%で、これに対してエンデュランスでは 75.6%) だった。

特筆すべきは、エンデュランスの陽性事例の 82.9%が、FEI ゾーンⅦ（アラブ首長国連邦、サウジアラビア、バーレーン、カタール、ヨルダン）に所属する馬から出たことである。2013 年 2 月 28 日における出場停止のライダー 20 名のうち 13 名（全体の 65%）がエンデュランス・ライダー（これに対して障害飛越 3 名、馬車競技 2 名、馬場馬術 1 名、軽乗馬術 1 名）であり、その所属はアラブ首長国連邦（7）、カタール（2）、バーレーン（2）、ヨルダン（1）、ポルトガル（1）だった（表 5：出場停止の表、2013 年 2 月 22 日更新、www.fei.org）。また、さらに指摘すべきことがある。過去 8 年間のエンデュランス世界選手権およびオープン・ヨーロッパ選手権における 3 名ものメダル獲得者（全員がアラブ首長国連邦のライダー）が、陽性結果を示したことである（2005 年アラブ首長国連邦ドバイ WEC における金メダル、2005 年フランスでのオープン EEC 選手権における銅メダル、2007 年ポルトガルの Barroca d'Alva でのオープン EEC における金メダル）。

例 2： 競技の公平性に反する事例の多発

多くは大会運営者のスポンサーシップ／サポートとの関係によるところが大きいのだが、ベト・ゲートの周囲に馬用の閉じたテントが建てられてリカバリー・スペースとして使われ、一部のライダーに可能な限りの便宜を図ることが普通のことになってきている（表 1～3。2012 年ユーストン・パーク世界選手権）。公式には、ベト・ゲート・ゾーンからより遠い場所に、大会運営者がテントを建てるのだが、そのテントはオープンで天候の影響を受けるが、（その他の）すべてのライダーが使えるようになっている。この状況は、大会参加者全員に同じ条件が与えられることを目指すすべてのスポーツのルールと真逆である。明らかなことは、2012 年世界選手権で個人メダルを受賞したのも団体金メダルを獲得したのも、ベト・ゲートでこうしたぜいたくな条件を享受していたことである。

したがって、我々は FEI に対し、以下のように即自的かつ厳格、かつ効果的な対策を講じることを求める。

ー薬物の過剰投与によるエンデュランス・ホースの酷使をなくす。特にドーピング検査で陽性反応をたびたび引き起こし、FEI 行動規範を軽視したことを知られている国々の馬についてはこれを重視し、すべての競技者に対して公平に、陽性反応が出た場合に予期される FEI の罰則システムを厳格に適用する。

ー競技および競技者の状態の不公平をなくす。そのためには、プライベートかつクロードの家屋をスポーツの開催地に建てることを全面的に禁止し、フェアな競技ができるようにし、競技ルールを厳格かつ公平に適用し（すなわち、スタッフによる馬へのアクセスを規制する、競技馬の分離を妨げる周囲のスタッフのごまかしや行為を規制する、馬の検査の手続きを公平にする、利害関係にある役員を排除する、など）、従わない場合はすべての競技者および役員に対して公平に厳罰を課す。

加えて、ドーピング検査に頻繁に違反し規則違反を繰り返す国々を一時的に排除するためのシステムが承認されるべきである。あるいは、エンデュランスをはっきりと分離し、公式の FEI エンデュランスと

国内エンデュランスとプライベートなエンデュランス（FEI 競技のための資格認定を伴わない）に分けることが、検討されるべきである。

ここに説明してきた FEI エンデュランスの現況をこれ以上受け入れたくないライダーやトレーナーや役員は、国際的な動きを作り出すと思われる。このスポーツに携わる人々は、競技において、そしてメディアを通じて、競技における節度ある行為を求めていこう。

この書簡は、事態にかかわった人々を糾弾したり、その人々をこのスポーツから排除しようとする意図を持つものではない。しかし、これらの緊急かつ非常に重大な手段が講じられた時にのみ、FEI エンデュランスは必要かつ前進的な転換をとげることができ、今後、スポーツの公平さを尊重し馬やライダーの幸福や高潔さを尊重するフェアでクリーンなスポーツへと導くことができるだろう。さらに、これまでに述べたこの危機的状況は関連するものをこの爆発に巻き込む危険をはらんでいる。つまり、エンデュランス以外のすべての FEI 馬術競技のイメージを危険にさらしているのだ。2011 年にヨーロッパで開催された大会の 66.5%（EEF2012 年）は FEI 大会なのだから。したがって、FEI の即刻の行動が不可欠である。

敬具

スイス馬術連盟会長

Charles F. Trollet

理事

Peter Christen